

令和4年

印旛教育研究集会
生活科分科会 提案資料

研究主題

子どもの主体性が、深い学びにつながる生活科学習
～導入・伝え合いの場の工夫を通して～

第三部会 印西市立小林北小学校

飯塚 頌子

1. 研究主題

子どもの主体性が、深い学びにつながる生活科学習
～導入・伝え合いの場の工夫を通して～

2. 主題設定の理由

(1) 今日的な教育課題から

新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、社会の変化は加速度を増し、複雑で予測が困難なものとなってきている。そして、人工知能 (AI)、Internet of Things (IoT)、ロボティクス等の先端技術が高度化し、それらがあらゆる産業や社会生活に取り入れられた Society5.0 時代が到来しつつある。社会の在り方そのものが、劇的に変わる状況が生じつつあるのだ。このように急激に変化する時代の中で、私たち一人一人、そして社会全体が、答えのない問いにどう立ち向かうのかが問われている。目の前の事象から解決すべき課題を見だし、主体的に考え、多様な立場の者が協働的に議論し、納得できる解答を生み出すことが求められているのだ。

これから生きる子供たちには、他者と協働して課題を解決する力、様々な情報をもとに自分なりの認識を構築していく力の育成が必要である。生活科における見方・考え方を生かして、児童の思いや願いを実現しようとする学習活動の中で、考えたり表現したりすることを通して、自立し、生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することを目指したいと考えた。

(2) 学習指導要領から

生活科の教科目標は、「具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成すること」である。さらに、生活科の目標の構成は、以下の通りとなっている。

- (1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。(知識及び技能の基礎)
- (2) 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。(思考力、判断力、表現力の基礎)
- (3) 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

平成29年度の学習指導要領改訂の基本方針には、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進が、はっきりと示されている。これを実現するためには、体験活動と表現活動とが豊かに行きつ戻りつする相互作用を意識していくことが大切である。そのためには、児童の興味関心を踏まえた学習対象との適切な出会いの場と、自分の思いを表現する伝え合いの場の工夫が必要であると考えた。

(3) 学校教育目標および目指す児童像から

「心豊かで、進んで学ぶ、丈夫な子の育成」
気持ちのやさしい子・根気よく学ぶ子・たっぷり運動する子

本校の学校教育目標は、「心豊かで、進んで学ぶ、丈夫な子の育成」である。目指す児童像の一つとして、「根気よく学ぶ子」を掲げている。その具現化に向け、児童主体の授業改善により、「確かな学力」を育むことを手立てとしている。確かな学力とは、知識や技能はもちろんのこと、これに加えて、学ぶ意欲や自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解

決する資質や能力等まで含めたものを指す。生活科として「確かな学力」を育むためには、児童が自ら対象に働きかけ、気付いたことを伝え合ったり、振り返って捉え直したりすることを通して、気付きの質を高めていくような学習活動が重要である。また、体験活動と表現活動とが繰り返されることで児童の気付きの質が高まることから、児童が自分なりの思いや願いをもてるような導入の存在も大切である。

主体的に取り組んだ結果を伝え合える生活科学習により、根気よく学ぶ児童を育成することで、本校教育目標の「進んで学ぶ」の実現につながると考える。

(4) 地域や児童の実態から

本校は緑豊かで閑静な新興住宅地のはずれに立地し、学校の裏側や横には田や遊水池がある。児童数は158人(2022年度)、全学年が単学級である。明るく素直な児童が多く、学習に対して真面目に取り組む児童が多い。しかしその反面、学力の個人差が大きく、全体的に高くはない。友達との関わり合いやコミュニケーションが不足していることもあり、話し合いの場面では相互に深まらない様子も見られる。それは生活科の場面でも見られ、周りに流されるままに体験活動に取り組んでいたり、活動から気付いたことを自らの考えとしてもてなかつたりと、児童に思いや願いをもたせ、その後の学習に繋げる指導が行き届いているとはいえない状況であった。

以上のことから、児童の興味関心を踏まえた学習対象との適切な出会いの場と、自分の思いを表現する伝え合いの場の工夫の必要を感じ、主題を「子どもの主体性が、深い学びにつながる生活科学習～導入・伝え合いの場の工夫を通して～」とした。

3. 研究のねらい

生活科における導入や伝え合いの場の工夫をすることによって、子どもの主体性が高まり、それが質の高い気付きへとつながることを明らかにする。

4. 本研究における主題の基本的な考え方

(1) 「子どもの主体性」とは

子どもの興味関心から、目的を果たすために何をすべきか考えながら、自分の意志や考えで行動を決定する子どもの態度。

(2) 「深い学び」とは

活動を繰り返したり対象との関わりを深めたりすることに伴い、一人一人の気付きが関連付けられた気付きとなったり、対象への気付きが自分自身への気付きとなったりすること。

5. 研究の仮説

【仮説1】自らの思いや願いがもてるような導入を行えば、子どもの主体性が高まるとともに関わる対象への気付きが生まれ、深い学びへとつながるであろう。

〔具体的な手立て〕

- ①児童と作成した年間計画を生かす場の設定（1年間でやってみたいことリスト）
- ②写真や実物などの提示（前回の観察時の様子・活動写真・制作物など）
- ③単元に沿った図書の掲示（図書館の活用）
- ④他学年や職員との交流（低学年での共同作業・ゲストティーチャーなど）

【仮説2】活動に応じて伝え合う場や振り返る場を工夫すれば、新たな気付きが生まれるとともに様々な気付きが関連付けられ、深い学びへとつながるであろう。

〔具体的な手立て〕

- ①ねらいに合ったワークシートの作成
- ②個に応じた手立てや声かけ
- ③自分の考えや思いが表現しやすい小グループでの話し合い活動
- ④友だちの話が聞きたいと思える情報共有の場の設定
- ⑤出し合った意見を整理するための付箋や模造紙の活用

6. 検証方法

抽出児童の発言や振り返りカードの記述内容から変容を捉える。

7. 授業実践①【第1学年】

(1) 単元名 あきとなかよし（小単元：あきとあそぼう）

(2) 単元の目標

- ・秋の自然の様子や夏から秋への変化、それを利用した遊びの面白さに気付くことができる。
(知識及び技能の基礎)
- ・秋とその他の季節との違いや特徴を見付けたり、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりすることができる。
(思考力、判断力、表現力等の基礎)
- ・季節の変化を取り入れ自分の生活を楽しくしようしたり、みんなと楽しみながら遊びを作りだそうしたりする。
(学びに向かう力、人間性等)

(3) 指導の実際と評価の計画 37時間扱い

単元「あきとなかよし」

小単元「いきものとなかよし」8時間

- ・知っている虫や見付けた場所について話し合い、虫を探しに行く。(2時間)
- ・見付けた虫の飼い方やすみかの作り方を本やインターネットなどで調べる。(2時間)
- ・虫のすみかを作って飼い、様子を観察し、わかったことを伝え合う。(4時間)

小単元「さいばい：はなや やさいと なかよし③」8時間

- ・たねの形や色などについて観察カードに絵や文で表現する。(2時間)
- ・育ててきたアサガオのたねとりを行い、来年の新1年生へのプレゼントとして、たねを保管する袋の準備をする。(2時間)
- ・土の中にできているサツマイモを収穫し、自然の不思議さを体感する。(2時間)

- ・冬を越す植物の苗や球根を植え、植物をさらに育てていく意欲を高める。(2時間)

小单元「あきとあそぼう」15時間

時間	学習内容と学習活動	評価規準(評価の観点)【評価方法】
1	<p>・秋について知っていることや園などで経験したことがある遊びなどを出し合う。〈仮説1〉</p> <p>〈仮説1〉児童と作成した年間計画を生かす場の設定 単元に沿った図書の掲示</p> <p>導入時に4月に立てた年間計画を振り返り、子供たちがやりたいと考えていた「秋の工作がしたい」という思いや願いを想起した。自然と、「そういえば保育園で落ち葉で遊んだよ」「幼稚園で行った公園には落ち葉がたくさんあったよ」「校庭にどんぐりがたくさん落ちていたよ」などという、生活経験を出し合うことができた。自分は経験しているが、卒園した場所の違う友達は経験していないこともあるため、「1年生のみんなと楽しみたい」「友達に教えてあげたい」という思いが高まった。また、単元に沿った図書の掲示により、行ったことのない遊びや見たことのない木の実や落ち葉に対しての興味関心が高まった様子が見られ、「やりたい」「見付けたい」という声が上がった。全体での話し合いの中で、主体性の高まりとともに、「知らないこと」「見たことのないもの」「友達は知っているもの」があることに気付くことができた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="300 902 858 1283"> <p>〔4月に立てた年間計画〕</p> </div> <div data-bbox="874 902 1417 1283"> <p>〔飾っていた図書〕</p> </div> </div>	<p>・校庭の秋の自然の様子や特徴、夏から秋への移り変わりにきづいている。 (知識・技能)【発言】</p>
2	<p>・校庭で秋見付けをする。</p> <p>・身の回りで見付けた秋の様子を発表し合い、気付いたことを自分なりの方法で表す。〈仮説1〉〈仮説2〉</p> <p>〈仮説1〉写真や実物の提示(大型テレビとタブレットを活用)</p> <p>導入で、校庭で秋見付けをしている際の活動写真を大型テレビで提示し、校庭での秋見付けの様子を想起させた。児童の中で楽しかった気持ちが蘇り、「伝えたい」「知らせたい」という意欲が高まった様子が見られた。自分では詳しく見なかった場所や行かなかった場所で、じっくりとワークシートを書く友達の様子に気付く子もあり、「そこには何があったのか」という疑問をもつこともできた。</p> <p>〈仮説2〉ねらいに合ったワークシートの作成</p> <p>友だちの話が聞きたいと思える情報共有の場の設定(廊下での発表会)</p> <p>身の回りで見付けた秋の様子を、友達に知らせることを目的としてワークシートを作成した。そのため、アサガオの観察日記よりも小さめの枠を用意し、1人2つのお気に入りの秋を紹介できるようにした。発表の場は学級全員のワークシートが掲示された廊下で行った。そのため、みんなでたくさんの秋が見付けられたことへの充実感を味わうと共に、自分では見つからなかったものへの気付きも</p>	<p>・諸感覚を生かして、校庭の秋の自然に関わっている。 (思考・判断・表現)【行動・発言】</p> <p>・秋の自然を楽しみたいという思いや願いをもって、校庭の秋の自然と触れ合おうとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)【行動・発言】</p>

生まれた。しかし、どの児童のワークシートにも、秋の木の実として代表的な松ぼっくりがなかったことから、校庭には松ぼっくりがないことが確かなものとなったようで、「松ぼっくりを探したい」「もっと他の秋も探したい」という校外への興味関心が生まれた。



〔使用したワークシート〕



〔発表会の様子の例〕

<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> 校外での秋見付けの活動への興味をもち、公園に行くための計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動のめあてや約束などを考え、公園に行くための準備を進めている。(思考・判断・表現)【発言・ワークシート】 校外での秋見付けの活動に興味をもち、話し合いに参加したり活動への思いや願いをもって関わろうとしている。(主体的に学習に取り組む態度)【発言・行動】
<p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> 秋の公園に行き、落ち葉や木の実を見付けたり、集めたり、遊んだりする。 遊んだことを振り返り、諸感覚を使って秋を感じたり、比べたり言葉で表現しながら秋と親しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 公園の秋の自然の様子や特徴、夏から秋への移り変わりにきづいている。(知識・技能)【発言】 楽しみたい遊びを思い描きながら、公園の秋の自然の中から遊びに使うものを選んでいく。(思考・判断・表現)【行動・発言】 秋の自然を楽しみたいという思いや願いをもって、公園の秋の自然と触れ合おうとしている。(主体的に学習に取り組む態度)【行動・発言】
<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> 「みつけたよカード」を友だち同士で読み合うことを通して、比べたり意見交換をしたりしながら、秋と親しむ。〈仮説1〉〈仮説2〉 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちとの交流を通して、色や形、大きさなどの違う木の実や葉っぱがあることに気付いている。(知識・技能)【発言】 見つけた秋を、比べたり、たとえたり、自分なりに言葉で表現したりしている。(思考・判断・表現)【行動・発言】

〈仮説1〉写真や実物などの提示(集めた物の見せ方と大型テレビの活用)

導入で、公園で秋見付けをしている際の活動写真と見付けてきた木の実や落ち葉の実物を提示した。活動している際の、発見した時の喜びや楽しかった気持ちが想起され、「みんなに教えたい」「友達が見付けたことを知りたい」という意欲が高まった様子が見られた。



〔拾った木の実に名前をつけて提示した〕



〔実際に見せた活動写真〕

〈仮説2〉ねらいに合ったワークシートの作成

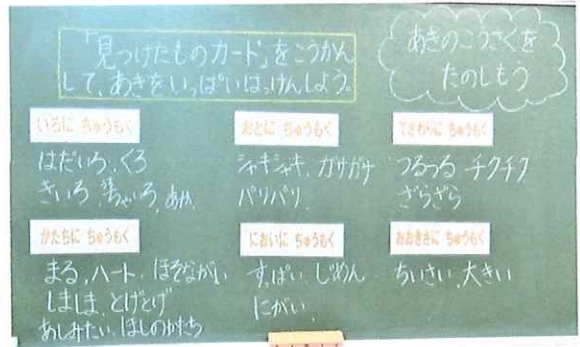
自分の考えや思いが表現しやすい小グループでの話し合い活動（ローテーブルを使って）

5人程度のグループを組ませ、ローテーブルを使った話し合い活動を計画した。自分の意見に自信がもてずに控えめになってしまう児童もいたのだが、グループ内で小さな発表会を行うことによって、友だちの意見に影響されたり認められたりすることにより、自分の考えに自信をもつことができた。

ワークシートは校庭での秋見付けと同じ物を使用した。カードのように切り抜き、並べて見比べたり仲間を作ってグループ分けができたりと、児童が操作をしやすいように工夫した。自分の考えをもち、友だちと楽しく意見交換をすることによって、「同じ落ち葉でも色がたくさんある」「秋にはいろいろな音がある」「手触りもたくさんあって面白い」などという、気付きの関連付けが生まれた。



〔発見カードを小グループで比較する様子〕



〔板書〕

1 ・公園で集めてきた落ち葉や木の実を使って作りたいものやしたいことへの思いや願いをもち、制作活動への意欲を高める。〈仮説1〉

・めあてや約束、用意するものなどを考え、制作活動をはじめるための準備を進めている。

（思考・判断・表現）【発言・ワークシート】

・制作活動に興味をもち、話し合いに参加したり活動への思いや願いをもって関わろうとしている。

（主体的に学習に取り組む態度）【発言・行動】

〈仮説1〉写真や実物などの掲示（過去の低学年で作成した掲示物の活用）

過去の低学年で作成した掲示物や作品がある生活科ルームに学習拠点を移して導入を行った。過去の1年生が制作した秋の工作や、秋を使って遊んでいる様子を写真で見ることによって、「自分たちもやりたい」「作りたい」という主体的な気持ちが高まった様子であった。また、「作るためには何が必要なのか」「どうやって作るのか」という、これからの自分たちの活動に思考が移っていき、「ボンダが必要だ」「画用紙が欲しい」「本で調べよう」などの意見交換へと繋がっていった。



〔昨年度の1年生の実績による掲示物〕



〔過去の制作物の展示や掲示物〕

- 7
- ・落ち葉や木の実などを使って、いろいろなものを工夫して作り、どうしたらうまく作ることができるかを友達と教え合う。
 - ・落ち葉や木の実を使った制作活動について振り返り、楽しかったことや工夫したこと、人との関わりなどを、文章で表し伝え合う。
〈仮説1〉〈仮説2〉
 - ・校庭や公園の秋の自然はいろいろな遊びに利用できることや、遊びを工夫したり遊びを創り出したりすることの面白さに気付いている。(知識・技能)【行動・発言・振り返り】
 - ・遊びの約束やルールなどを工夫しながら遊んでいる。
 - ・比べたり、たとえたり、試したり、見通したりしながら、遊びを楽しんでいる。
(思考・判断・表現)【行動・発言・振り返り】
 - ・校庭や公園の秋の自然の様子や特徴に応じながら、それらと関わろうとしている。
(主体的に学習に取り組む態度)【行動・発言・振り返り】

〈仮説1〉写真や実物などの提示(用具を見せる工夫と完成モデルの提示)

遊び道具や飾りを作るために、ボンド・カラーペン・グルーガン・リボン・紙コップなどの用具や素材をたくさん用意し、導入の段階ですべての用具を広げて見せた。特にグルーガンは子供たちにとって初めて見る用具でもあり、「この素材を使いたい」「早く作りたい」という、これからの学習への意欲が高まった。グループでの制作の場では、各グループに見本となる完成品を用意した。そうすることによって、教師に作り方を教わらなくても、実物を見ながら自分たちで考えて作ることができたり、「こうするといいよ」「ここはしっかりくっつけないといけないよ」という気付きと伝え合いの場が自然と生まれた。



[手本を見ながら自分たちで工作をする様子]

〈仮説2〉友だちの話が聞きたいと思える情報共有の場の設定(グループでの発表会)

5人程度の小グループごとに違う工作や遊びを行わせ、完成品を持ち寄った全体での発表会を行った。自分たちの力で完成させたという強い自信をもって発表会に参加することができ、工夫したところや大変だったところ、気に入っているところなどを友達に伝えることができた。それを受け、聞き手の児童は他のグループの制作物にも関心を高めることができ、「教えてもらいたい」「やってみよう」という思いを膨らませることができた。その後、各グループの友達が先生となり、教えたり教えられたりしながら、自分の成長に気付いたり、用具の使い方に詳しくなったりと、気付きの質が高まった。



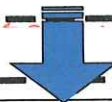
[グループでの発表会の様子]

小単元「おいでよ あきパーティー」6時間

(4) 児童の変容

①児童A

かいにおなもみがうてまたのがおもしろがたです。
あきのはなながかえりました。おなもみがちく
ちくしてしていたからたです。おはながらっしあ、あてい
あきをさがせましたか？
あきと なかよくなれましたか？

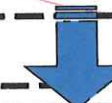


すていはんをしているのがいたのです。いなとあも
いしました。まいちゃんがおととかがおととかがおととかが
たなとおもいました。カードのこうかんしてはあも
あたらしく 気づいたことは ありましたか？
みつけた あきをおしえることは できましたか？

2回目の振り返りでは、秋にも花がたくさん咲いていることへの気付きや、オナモミを見つけたことについてが書かれており、秋を見付けられたことに満足した様子が書かれている。しかし7回目の振り返りでは、秋の音に注目した友達への賞賛が書かれていた。実際に手に取れる秋を発見してばかりだった自分と比較することを通して、目には見えない秋があることに気付くことができ、深い学びに繋がったと考えられる。

②児童B

ふつに見ても、なんにもおなもみがえりに、く
つき平がちくちくしてきて、くりしたは
もまいたコラスをしたらた。
あきをさがせましたか？
あきと なかよくなれましたか？



おちばちおあるこいしましきて音が
るおちばちおあるとかはかさと音が
する。あたらしいはけんができて、おともたちのはなしをまいて、おたね。
あたらしく 気づいたことは ありましたか？
みつけた あきをおしえることは できましたか？

2回目の振り返りでは秋を見付けることができなかつたと感じていた児童が、7回目の振り返りでは、落ち葉を見付けたり乾燥した音を感じるできるようになった。3時間目に設定された発表会や、7時間目のグループごとでの話し合い活動を重ねることで、見方が変わってきたためだと考えられる。児童Bも児童Aと同じように、手に取って感じることでできる秋から、目には見えない秋にも注目することができるようになり、深い学びに繋がったと考えられる。

8. 授業実践②【第1学年】

(1) 単元名 みんな なかよし (小単元：はなや やさいと なかよし①)

(2) 単元の目標

- ・植物に合った世話の仕方があることや生命をもっていること、成長していることに気付いている。
(知識及び技能の基礎)
- ・植物の変化や成長の様子を絵や文で表現したり、関心をもって働きかけたりしている。
(思考力、判断力、表現力等の基礎)
- ・植物への親しみをもち、植物を大切にしようとしている。
(学びに向かう力、人間性等)

(3) 指導の実際と評価の計画 26時間扱い

単元「みんな なかよし」

小単元「ともだちと なかよし」4時間

- ・自己紹介や集団ゲーム、歌などの遊びを通して、新しい友達と交流する。(1時間)
- ・「1年生歓迎会」に参加し、上級生や学校に関わる人たちに親しみをもち。(1時間)
- ・生活科で学習していきたいことを出し合い、年間計画を立てる。(1時間)
- ・2年生主催の「なかよしの会」に参加し、低学年での交流を深める。(1時間)

小単元「がっこうと なかよし」5時間

- ・2年生と一緒に学校内を自由に回り、興味のあるものやそこにいる人々と触れ合う。(2時間)
- ・学校の様子や学校生活を支える人々の存在など、気付いたことを地図にまとめる。(2時間)
- ・付箋に書いたことを発表し、友達に伝える。(1時間)

小単元「さいばい：はなや やさいと なかよし①」11時間

観点	学習内容と学習活動	評価規準 (評価の観点)【評価方法】
2	<ul style="list-style-type: none"> ・育ててみたい植物を出し合う。 ・「学校のお花名人」をゲストティーチャーとして招き、育ててみたい植物の中から種蒔きと開花の時期について教えてもらい、植物を選ぶ。(仮説1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・植物によって、たねのまき方や時期、世話の仕方が違うことに気付いている。(知識・技能)【発言】 ・自分の力で育てたいという思いや願いをもって、育てたい植物を選ぼうとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)【行動・発言】
<p>〈仮説1〉児童と作成した年間計画を生かす場の設定 写真や実物などの提示 (タブレットと大型テレビの活用) 他学年や職員との交流 (ゲストティーチャーを招く)</p> <p>4月に児童と一緒に立てた年間計画を導入時に振り返り、自分たちがやりたいと思っていた「お花を育てたい」という思いや願いを想起した。計画を立ててから間もないこともあり、自然と「あじさいが育てたい」「バラがいい」「ツバキもきれいだった」などと、児童の知っている花の名前が発表されていった。生き生きとした表情で手を上げる児童が多く、「自分たちのやりたいことができる」という期待感が強く感じられ、これからの活動への関心を高めることができた。</p> <p>また、名前を言われただけでは花の様子が想像できない児童もいたため、タブレットと大型テレビを使い、その場で花の写真を見せるようにした。幼児期に植物との関わりが少なかった児童からも、「見たことがある」「知ってた」「きれいだから育ててみたい」という声が上がって、これからの活動への意欲を高めることができた。</p>		

＊ひとりひとつのうえきばち＊

みんなですきなものをそだてる

みんなでおなじものをそだてる

＊そだてたいおはな＊

ちゅうりっぷ ばら あさがお
 こすもす つばき ひまわり
 はんじい なのはな すずらん

＊みんなのかんがえ＊

- ・いまから たねをまきたい
- ・なつに はなが さいてほしい

＊しりたいこと＊

- ・いったねをまくのか
- ・いつ はなが さくのか

がっこうのおはなめいしに
 おしえてもらおう!!

〔タブレットを使って児童の意見をまとめた〕

育てていく花を1つに決める際には、学校の花壇の手入れをしてくれている用務員の方をゲストティーチャーとして招き、花の種を蒔く時期と開花の時期を教えてもらう活動を行った。子供たちには、「今（春）から種蒔きをして、夏には咲く花が育てたい」という希望があったので、「いつ咲きますか?」「今度の夏には咲きますか?」という質問形式で回答してもらった。すると、花が咲くまでに何年もかかる花があったり、開花時期が秋だったり、花によって種のまき方や時期、開花の季節に違いがあることに気付くことができた。自分たちの興味関心から質問したり話を聞いたりすることによって、新しい気付きや知識を得ることができていた。



〈お花名人に質問する様子〉

<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アサガオの種を観察し、学習の見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アサガオも自分たちと同じように生命をもっていること、成長することに気付いている。 (知識・技能)【発言・ワークシート】 ・アサガオの種の様子を観察し、色や形、大きさ、アサガオの考えていることを、絵や文で表現している。 (思考・判断・表現)【発言・ワークシート】
<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備するものや育て方を「お花名人」に教えてもらい、種を蒔く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アサガオに合った、種の蒔き方や世話の仕方があることに気付いている。 (知識・技能)【発言】 ・種の成長を願いながら、丁寧に種を蒔いている。 ・アサガオに心を寄せ、水やりなどの世話を通して繰り返し関わろうとしている。〔常時活動〕 (主体的に学習に取り組む態度)【行動・発言】
<p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発芽したアサガオの成長の様子を観察し、観察カードに絵や文でまとめる。〈仮説2〉 	<ul style="list-style-type: none"> ・諸感覚を使ってアサガオを観察し、葉や茎などが成長した様子に気付いている。 (知識・技能)【発言】 ・アサガオの様子を観察し、成長の様子やアサガオの考えていることを、絵や文で表現している。 (思考・判断・表現)【行動・発言】

〈仮説2〉個に応じた手だてや声かけ（アサガオスコープ・観察のポイント）
ねらいに合ったワークシートの作成

葉や茎の様子を観察する際には、じっくりと観察する時間を十分に確保したり、アサガオスコープを使って視野を狭めたりすることで、毎日の水やりの時間だけでは気づけなかった葉の模様や色、手触りなどの新しい気づきが生まれた。また、スコープを耳に当ててアサガオの声に耳を傾け、「どんなことを考えているか」「何をして欲しいと思っているか」などを考えた。「大事に育ててね」「大切にしていね」という言葉から、どんなお世話をしていけばよいのかを考えるきっかけとなった。自分のアサガオにきれいな花をさかせたいという主体的な気持ちを高めることができた。



〈アサガオスコープを使って観察する様子〉

ワークシートには、アサガオの様子を絵で書くこと、成長の様子を文で書くこと、アサガオの気持ちを記録すること、これからどのように育てていくかを表現することができるよう、4つの枠を設定した。文章が苦手な児童に対しての配慮として、観察の視点と記述例が書かれた「観察のポイント」というプリントを、探検バックと共に持ち歩かせることとした。この手立てにより、観察の視点が増え、気付いたことを言語化しやすくなった。



〈観察のポイントと探検バック〉



〈実際に使ったワークシート〉



絵が上手く書けずに悩んでしまう児童への配慮としては、観察カードの絵を、教師が半分以上を仕上げておくことにした。児童がアサガオの芽をよく観察し、自力で表現してほしい部分だけを残すことによって、「上手に書けない」「どう書いていけばよいのか分からない」といった、観察カードを書くことへの抵抗を少なくすることができた。このように子どもたちの負担を軽減することによって、五感を使ってアサガオと関わる時間を確保し、新しい気づきへのステップを踏むことができた。

- 1 ・観察カードの発表会を行い、これからの世話の仕方を考える。
〈仮説1〉〈仮説2〉

- ・友達発表を聞いたり、話し合ったことをもとに、今後の世話の仕方について自分の考えや願いをもっている。（思考・判断・表現）【発言・ワークシート】
・アサガオの成長や変化に目を向け、気付いたことを友達に伝えようとしている。
（主体的に学習に取り組む態度）【発言・行動】

〈仮説1〉写真や実物などの提示

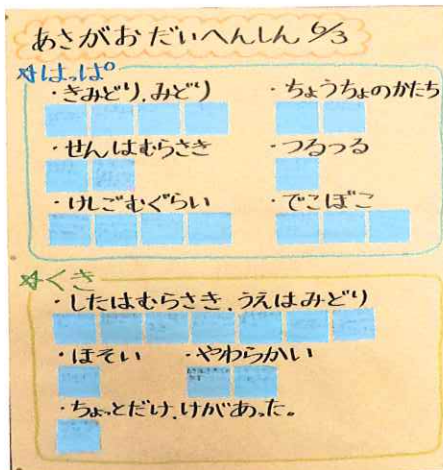
アサガオの双葉の様子や子どもたちの活動の様子を写真で記録しておき、本時の導入として提示した。芽が出て嬉しかった気持ちが想起されたり、自分なりの表現でまとめた観察カードを誰かに伝えたいという思いが高まった様子であった。

〈仮説2〉友だちの話が聞きたいと思える情報共有の場の設定
出し合った意見を整理するための付箋や模造紙の活用
ねらいに合ったワークシートの作成

前時の外での観察を行った際、気付いたことの下書きとして利用していた付箋を使い、全体での発表会を行った。自分の意見が模造紙に貼られていく過程が嬉しい様子で、元気に手を上げて発表する児童が多かった。また、発表された付箋がどこに貼られるのかにも関心が高く、友だちの話を知りたいという児童が多くなった。

また、付箋や模造紙を使うことによって、双葉は「ざらざらしている」「でこぼこしている」「つるつるしている」などと、手触りについての表現がバラバラなことに気付いた。みんなでもう一回確かめてみようという試みが生まれ、「つるつるしているけれども、でこぼこしている」という共通の認識へと変わっていった。

学級全体で気付きを共有した後、改めてワークシートに記録していたアサガオの気持ちを読み、これからどのように世話していきたいのかを考えた。「水やりをいっぱいしてあげたい」「毎日様子を見てあげる」などという、無意識の領域にあった自分の行動や思いを言語化することができるようになった。



〈付箋を模造紙にまとめたもの〉

- | | |
|---|---|
| <p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つるが伸びてきたアサガオの成長の様子を観察し、観察カードに絵や文でまとめる。
〈仮説1〉〈仮説2〉 | <ul style="list-style-type: none"> ・諸感覚を使ってアサガオを観察し、葉や茎などが成長した様子に気付いている。
(知識・技能)【行動・発言・振り返り】 ・遊アサガオの様子を観察し、成長の様子やアサガオの考えていることを、絵や文で表現している。
(思考・判断・表現)【行動・発言・振り返り】 |
|---|---|

〈仮説1〉写真や実物などの提示

発芽したばかりのアサガオの写真の提示した後、その横に本葉が出たアサガオの植木鉢を置くようにし、大きく成長したアサガオの様子を深く感じられるようにした。子供たちは毎日の水やりを通して「大きくなった」という事実は理解しているものの、「どのくらい大きくなったか」ということはあまり実感できていなかったようで、「すごく大きくなった!」「葉っぱがいっぱいになった!」という感動の声が多く寄せられた。



〈付箋に気付いたことをメモする様子〉

〈仮説2〉個に応じた手だてや声かけ (アサガオスコープ・観察のポイント)
ねらいに合ったワークシートの作成

観察のテーマを「あさがおだいへんしん」とすることによって、自然と変身(変化)した部分に着目するようになった。双葉と本葉の形の違いや、茎の太さや堅さの違いなど、様々な視点から比較する様子が見られた。

スコープを使ってアサガオの声を聞く場面では、「大きくなれて嬉しい」「お水をいっぱい

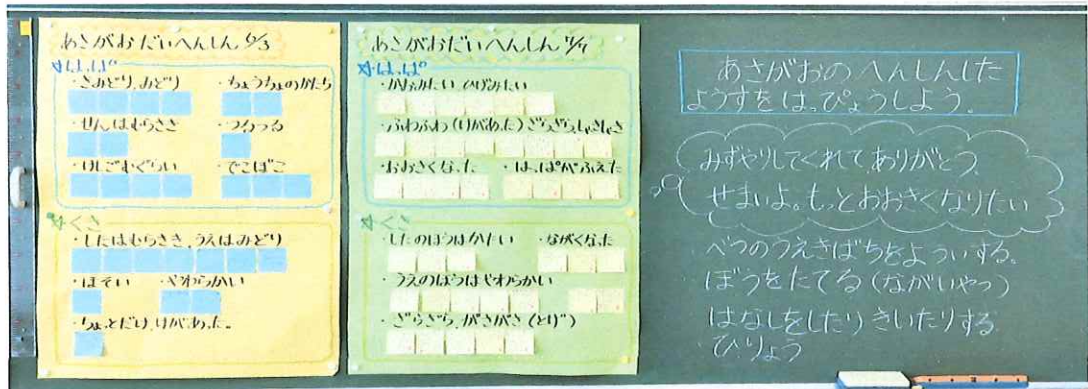
かけてくれてありがとう」という意見が多かった。そこで、教師から「困っていることはありそうかな。」「お願い事は言っていないかな。」などと新しい視点を投げかけることにした。すると、「植木鉢が狭いよ」「もっとつるをのぼしたい」「もっと大きくなりたい」という、アサガオの気持ちに寄り添った言葉を記録する児童が増え、アサガオの成長により一層親しみと愛着をもつことができるようになった。

- | | |
|---------------------------------------|--|
| <p>1 観察カードの発表会を行い、これからの世話の仕方を考える。</p> | <p>・友達の発表を聞いたり、話し合ったことをもとに、今後の世話の仕方について自分の考えや願いをもっている。 (思考・判断・表現) 【発言・ワークシート】</p> <p>・アサガオの成長や変化に目を向け、気付いたことを友達に伝えようとしている。
(主体的に学習に取り組む態度) 【発言・行動】</p> |
|---------------------------------------|--|

〈仮説2〉友だちの話が聞きたいと思える情報共有の場の設定
出し合った意見を整理するための付箋や模造紙の活用
ねらいに合ったワークシートの作成

1回目に行った観察カードの発表会の流れを、本時もそのまま継続することによって、子供たちが自分の気付きを安心して発表できるようにした。しかし、それでも緊張してしまう児童もいるので、全体での発表会の前に2人組での「ミニ発表会」を行わせた。「話し合い」「相談」という言葉を使わないようにすることで、実際に発表する言葉と同じように「私は〇〇だと思いました。どうですか。」「おもしろいね。」などという受け答えのあるペア学習の時間が作れ、みんなに知らせてみたいという意欲を高めることができた。

そして全体での発表会では、1回目にまとめた模造紙を黒板に掲示し、成長過程での様子の違いを比較しやすくした。すると、1人で観察した時には気づけなかった変化に驚く児童や、自分とは違った表現に感銘を受ける児童が現れ、深い学びへと繋げることができた。



〈本時の板書〉

アサガオの気持ちから今後の世話の方法について考える場面では、アサガオの困り感を解決するための取り組みを全体で考えた。単元に沿った図書の中に、支柱に絡みつくアサガオの絵がたくさん描いてあったことを受け、図書を一生懸命に読んでいた児童から、「棒を立ててあげたい」「肥料をあげたい」という声が上がった。学級1人1人の意見を全体で共有し話し合うことによって、様々な気付きが関連付けられ、新しい学びに進むことができた。



〈実際に使ったワークシート〉

1	・つるが伸びてきたアサガオに必要な世話を知り、支柱を立て、継続的に世話をする。	アサガオの変化や成長に応じた世話の仕方を自分なりに考えながら、実践している。 (思考・判断・表現)【行動・発言】
---	---	---

小単元「がっこうに くるみち かえるみち」6時間

- ・行き帰りの通学路の様子に関心を持ち、通学路にある公園までの道のり、施設の使い方やルールを確認する。(1時間)
- ・公園まで歩き、自分たちの安全を守ってくれている施設や人がいることに気付く。(1時間)
- ・公共施設の使い方やルールを守りつつ、公園で自然に触れながら友達と仲よく遊ぶ。(1時間)
- ・通学路や公園での様子を振り返り、自分たちの安全を守ってくれている施設や人についてまとめる。(2時間)
- ・付箋に書いたことを発表し、友達に伝える。(1時間)

(4) 児童の変容

①児童A

	みつけた	つたえた	かんがえた	いっしょにやった	まえより作できた
6月27日					
あたらしいははがでてうれしかった。 (1人で本葉を観察)					
7月12日					
つるのさきほのところにばはがあ たるところがわかった。 (1人でアサガオ全体を観察)					
7月19日					
ははがくろくなつて大きくなった ことがわかった。 (アサガオ全体の観察結果を共有後)					

本葉の様子を自分一人で観察した際の振り返りカードには、新しく本葉が出てきたことへの喜びが記されており、新しい葉を見たり触ったりして得た気付きについては無意識の領域に片付けられてしまっているようであった。しかし、全体での発表会を終えた後の振り返りカードからは、新しい気付きや発見についてが記されるようになった。教師に教えたいことが、「大きくなった」「たのしかった」という漠然とした事実から、「詳しく見たからこそ気付いたこと」「友達に教えてもらって初めて知ったこと」に変わってきたことが分かる。友達の話が聞きたいと思える情報共有の場の設定により、1人では気付けなかった新たな気付きが生まれ、深い学びへと繋がったと考えられる。

②児童B

	みつけた	つたえた	かんがえた	いっしょにやった	まえより作できた
6月27日					
かんがえてたのがあった。 (1人で本葉を観察)					
7月12日					
茎がめいのははがくろくなつて べりした。 (1人でアサガオ全体を観察)					
7月19日					
したのけるなつてべりした (アサガオ全体の観察結果を共有後)					

本葉の様子を自分一人で観察した際の振り返りカードには、アサガオの葉や茎を触ったりアサガオスコープを使って観察したことが楽しかった思いが記されていた。実際の観察カードを見ても、色は緑で葉は2枚などと、比較した様子はあまり見られなかった。しかし、全体での発表会を終えた後の振り返りカードからは、変化を捉えるような言葉が増えた。書き記している言葉は少ないが、「緑だった葉が黒くなった」「茎にたくさん毛があったのに少なくなった」ということが伝えられたようである。自分が見たり触れたりした事実だけでなく、比較したり友達に教えてもらったりと気付きの幅が広がることによって、深い学びへと繋がったと考えられる。

9. 成果 (○) と課題 (▲)

【仮説1】自らの思いや願いがもてるような導入を行えば、子どもの主体性が高まるとともに関わる対象への気づき生まれ、深い学びへとつながるであろう。

〔具体的な手立て〕

- 4月に「生活科でやりたいこと」をテーマに年間計画を児童と制作することによって、どの季節の学習においても、児童の願いを受けた単元であることを前提に授業をスタートすることができ、主体的に活動するための良いきっかけとなった。
- 活動写真や実物を提示をすることによって、「楽しかった」「こんなことに気付いた」という気持ちを想起しやすくなり、「教えたい」「知りたい」という友だちとの交流に向けての意欲を高めることができ、話し合いをする中での新しい気づきへの架け橋となった。
- 制作物の完成モデルを提示することによってゴールが明らかとなり、「できるかも」「分かるかも」という気持ちを高めることができた。そのため、子どもたちが主体的に制作に向かう姿が見られた。
- ▲単元に沿った図書の提示は行ったが、それを使って調べようという声が上がったり、生活科の後の休み時間に積極的に読みに行ったりする児童の姿は見られなかった。第1学年の段階において、「本は物語として楽しむもの」という認識が強く、「調べるもの」「知識を得るもの」としての認識は薄いようであった。読書の時間を通して、新しく加わった図書について教師の方から声をかけるなど、「読もう」「知ろう」というきっかけを作る必要性を感じた。
- ▲自らの思いや願いがもてるような導入を行えば、子どもは意欲を高めて学習に取り組みはじめるが、その気持ちを45分継続させていくためには、学習課題の難易度を下げたり、学習中の「わかった」「すごい」「おもしろい」という気づきのタイミングを図る必要である。

【仮説2】活動に応じて伝え合う場や振り返る場を工夫すれば、新たな気づきが生まれるとともに様々な気づきに関連付けられ、深い学びへとつながるであろう。

〔具体的な手立て〕

- ねらいに合ったワークシートの作成をすることによって、話し合い活動が活発になったり、普段の生活では気付けないような新しい気づきを生むことができた。
- 「アサガオスコープ」や「発見のポイント」など、学齢や個に応じた手立てや声かけを行うことによって、学習課題の難易度が下がり、五感を使って対象物と関わろうとする意欲が生まれた。結果、新しい気づきを増やすことができた。
- 自分の考えや思いが表現しやすい小グループでの話し合い活動を行うことで、自分の意見に自信のない児童も、少人数でならば発言することができた。友達に認められたり話し合ったりすることを通して、自信をつけると共に、「僕と同じ発見」「私とは違った発見」などと、様々な気づきに関連付けることができた。
- 付箋や模造紙の活用をしながら進めた「アサガオの双葉の観察」では、一人一人の観察内容が整理され、学級全体で曖昧であったことを明確にすることができた。そのため、本葉の葉の様子との違いを学級全体で理解したり、不思議なことに面白さを感じたりすることができた。
- ▲今回は付箋やワークシートを使って伝え合う活動を行ったが、児童の実態に応じて思考ツールを増やしていくことで、よりよい伝え合いの場や振り返りの場を設定することができると考える。
- ▲気づきに関連付けていくためには、「友だちのおかげで面白いことに気付けた」「友だちが教えてくれた」という経験を積み重ね、相手の話を聞きながら、考えを広げたり深めたりできるようなコミュニケーション能力を育成する必要がある。